

保育部会

(和泉部会長)

それでは、保育部会を開会したいと思います。活発に意見を出していただいて、濃密な時間になれば幸いです。よろしくお願いいたします。

それでは、全体会の議事次第2の平成30年度特定教育・保育施設利用定員について資料Iの保育園に関する定員と在園児の児童数、年度別の比較これらに関しまして、また支援事業計画の中間年の見直しに関しての2点について事前にご意見があれば意見交換していただきたいのですが、よろしいでしょうか。

年度別比較表と今年度どのくらいの児童が各入園を希望しておられるか、資料1の2枚を比べ合わせて、押野保育園がマイナス20になったのはなぜですか？

(事務局)

申込人数が減ったことによるマイナスです。4月1日入所人数が134人に対する定員が140人と予定しております。

(和泉部会長)

6月なり10月にもっと未満児が来るかもしれないと考える訳ですが、それらも含め、20人の減のほうが運営がよいというご判断ですか？

(事務局)

はい。途中入園も140を超えることもあるとは思いますが、保育園の方では140を超えても受け入れる面積要件ももちろんございますし、最初のうちはこのくらいの定員で進めながら保育士の配置も徐々にということで4月1日の状況ではこの人数の配置でいかなものかなと計画させて頂いた次第です。

(和泉部会長)

皆さんこの定員の増減等につきましては、利用児童数と比較しながら、何か不自然だな、と思うような所がありますか？

はくさん保育園は変わらずたくさんのお子さん達を見て下さっているということになりますね。金沢には正美保育園とかわらべ保育園等320、330と受入れている保育園もありますが、本当に大きいですね。野々市さんで240はやむを得ないかということですね。子ども達の利用希望と定員ということで定めて頂いたこれを、来年度の方向性にしましょう。幼稚園さんについてはという話もいたしたいと思います。

(委員)

今、資料 1-2 を見ていたのですが、青竜第 2 幼稚園の方ですけど、3 歳児クラスが年長さんの下のクラスにあるのですが、ここが 0 になっていますが？

(事務局)

その点につきましては、4 月 1 日の基準日で想定させて頂いているので、青竜さんの方からも 30 年度は満 3 歳児クラスの方々が 20 名のお子さんを聞いています。扇が丘幼稚園さんは満 3 歳児クラスの方が 9 名の申込みの方がいらっしゃるということでこちらのほうにかっこで書けば良かったのですが、4 月 1 日に満 3 歳になられている方はこの 3 歳児クラスの方に入られるので、こちらが 0 ということになっていますが、ちょっと紛らわしい書き方で申し訳ありませんでした。青竜さんではこの 119 名にプラス 20 名、扇が丘さんでは 86 名プラス 9 名の満 3 歳児さんを受け入れて頂いて園が進んで行くというふうに補足させて頂きます。

(委員)

はい、わかりました。ありがとうございます。

(和泉部会長)

そういう形で満 3 歳児が順次入園してきます。3 歳児クラスを一つ設けるかどうかは各園の様子によります。3 歳児クラスに合流させて、新たなクラスを設けないという方向かもしれません。いずれにしても 1 年間の間に青竜さんの場合、20 名のお引き受け下さることになりますね。ですから、希望するのは 140 ぐらいの数になるということです。今年急激に幼稚園の希望が減っているということではなく、維持をしておられるので、私たちもいつも青竜さんにお世話になっていますので、現状維持はやっていけると思います。それでは保育園のこと幼稚園のこと少し見ることが出来ました。来年度から 4 つの園が認定こども園に移行するということになっておられますが、ほりうち保育園さんも 30 年度以降こども園へ移行予定です。

(守山委員)

1 号認定を希望される方の人数が見えないのですが、幼稚園さんの数字を見ていると 3 歳児、4 歳児、5 歳児が、例えば青竜さんだと 36、49、44 ということは、2 クラスずつあるのですか？

(清水委員)

年少は少ないですけど 3 クラス、年中が 2 クラス、年長が 3 クラスです。

(守山委員)

こども園になると教室という中の定員の数、教諭の数とかなり保育園とは変わってくるので、今、園に入っている方を排出することなくそのままこども園になろうとするとかなり警戒をしないと、この3歳4歳5歳児の定員にはおさまらないし、稼働期は大変だなあという思いがあります。

(和泉部会長)

移行1年目はどこの園でも非常に苦労しているし、1号さんの見通しも立つようで立たない、いちおう5名でやっていらっしゃるのでしょうかね。そういう状況でありますね。それを過ぎ2年目ぐらいになってきますと、見えるものが見えてくるようになってくると思うのですが、4園移行でありますので、また色々ありましたら市の方も相談に乗って差し上げて下さい。

そうしますと、認定こども園にならない形でということになると、野々市市も4つだけになるのですね。公立さんは公立さんとしてですが、法人の中で移らない方が4つだけになるのですね。こんなに早く認定こども園の移行になるっていうことは予想していましたか？

(事務局)

順次進めて行って頂くということは聞いておりましたが、今年30年度、31年度の中でまだ4園残っている中にもこども園に移行するお考えをお持ちの園がございますので、来年度またこういった会議の中で移行になりましたというご報告があると思います。それについては、また園と協力しながら担当課の方もご相談して進めて行きたいと思っております。

(和泉部会長)

公立保育園がどのような動きを取るかはまだ何も見えてこないのですか？

(事務局)

そうですね、今のところ公立は認定こども園になる考えはなく、しばらくの間は法人の皆さんの認定こども園の移行をサポートしながら公立園の動向をまた考えるという市の方向性であるということです。

(和泉部会長)

そうすると、幼稚園さんが幼保連携型認定こども園、認定こども園に移られるという流れが果たしてどのような形であるのか、このまま私学助成の中にいらっしゃるとすれば、それはそれでね、私学助成が急に切られることはないと思いますので。あくまでも助成ですので、やはり、給付型はすごく、すごく安定します。そう言った安定財源となった時には私立幼稚園もそういう方向性を見出していかなければならないという時期が来るかもしれ

ません。どんどん金沢から向こうの宇ノ気あたりもそういう流れの中にいたりしますので、これはこれで各園の建学の精神というもので揺るぎ無いものでやっていく時はこのままいきたいと思われると思います。

それでは、事務局から頂いた支援事業計画の見直しはなしで進めていきたいというご意向に何かご意見ありますか？10%以内というのはこのままやって行けるという、そして0歳児の説明も十分して頂きましたのでわからないことはなかったと思います。

(委員)

10%というのは、4ページのマイナス13.2とかマイナス17.4とかありますが、これは何ですか？

(事務局)

この乖離率というのは量の見込みを実績値で割って出している訳ですけど、27年の3号0歳については86の量の見込みの中で71人、その割った中から100を引いたものが乖離率として考えるとして、単に乖離率が実績と量の見込みを割るだけではなく、そこから100を引くという乖離率の求め方で乖離を見ていくということです。実績と量の見込み計画値が近ければ近い程、乖離率が少なくなるという形で、0歳は分母の量の見込みが小さいので1人2人の差で乖離率が大変大きくなっていくのです。分母が大きいとさほどの乖離率にはならないのですが、0歳に関しましては分母が小さいのでこういった大きな乖離率になるということをご理解頂きたいと思っております。

(和泉部会長)

そして入園の時期を重ねていきますと、乖離率がだんだん狭まってくるのだと思うのです。29年度マイナス13.2ですけど、そういうのを重ねていくとなっていくのではないのでしょうか。28年度も上手くマイナス1.1でした。つまり私達が3年4年前に立てた数的なものがそう大きな誤差はなかったということですね。これは他で大きい所もあるのです。野々市は比較的上手に見込みを立てたのではないのでしょうか。

(委員)

そのお話の中で、例えば0歳児の途中入園が年間どのくらいあるのですか？

(事務局)

その年度によって幅はございますが、3月まで多い所であれば、最初の入園4月の時点から野々市市の16園で3倍近くの数になることもございました。例えば27年の例をみると4月に0歳児として71人でしたが、3月には200人になりました。これだけの伸びがあるのはおかしいかなと思いますが、16園に万遍なく2人ぐらい毎月増えていったらそれく

らしいの伸びになります。出生率が月にもよりますが、5月6月ですごく増えます。中央保育園では5月で5人、6月で3人増えています。

(委員)

今お聞きしますと、かなりの増加なので逆に4月1日ではマイナスですが、これはもっと見込んでおかないと大丈夫かなと不安になりましたが、その点は大丈夫でしょうか？

(事務局)

それが先ほど定員の中で0歳の受け入れの平米率というものを見込みまして、年度途中でどれだけまで0歳児を受け入れられるかを見越して、年間の受け入れの人数、途中入園の部分は考えています。ですが、次々問題点にもなっていますが、部屋の面積があっても0歳児は3人に1人という国で定められた保育士の持ち人数がございます。4月には3人で先生が1人で良かったものが、6月では12人で先生が4人必要となってくる中で、一番の問題点は保育士の確保、途中入園の6月7月分を見越して4月には配置をして、慣れない中で他の年齢には先生が充足されていてもそこにお手伝いするという配置をしておいて、0歳の人数が増えることを見越して、職員の配置なり募集なりを考えていますが、なかなかそこが厳しい状況です。ですが、ご希望がある場合は出来るだけ保護者の希望に沿うように受け入れられる人数を受け入れながら保育士をその都度探しながら保護者のニーズにお応えしていった、待機児童の無いように、希望のサービスが受けられるように考えております。

(和泉部会長)

皆さんその様な状況なのです。野々市さんも多大なご努力をしていますが、大変です。それでも0歳児を受け入れていかなければならないので、さまざまなことを考えて丁度この当たりということなのでしょうね。そして待機児童0という運営をやっていこうということですね。それでは、全体会で少し議題になりました2番目と4番目についてはこれで納得ということにしたいと思います。

では、部会の議題であります、13事業である量の見込み等につきまして、資料の6ページから見て参りたいと思いますので、ご説明をよろしくお願い致します。

(事務局)

「支援事業計画における「量の見込み」及び「確保方策」について」(資料3、他)に基づき説明

(和泉部会長)

それでは、これで説明はほぼ頂きました。少し議論をしていきましょ。13事業を網

羅していきますと、今自分たちの住んでいる市がどれくらいの厚さで子育てに向き合っているかということがよくわかって、皆さんのご努力がとても有難いと思っております。

(委員)

一時預かり 8 ページ、2 番目の未就園児の一時預かりですが、前は保育園に入れなくて一時預かりは月 12 回で保育料より多くなつてはいけないということで一回ずつお金を頂くのですが、12 回しっかり預けるお母さん、そして朝の 8 時から夜の 6 時まで預けるお母さんが何人も居たのですが今年は、最初 4 月の一時預かりが減っていて、去年は 65 件あったのが今年は 13 件しかなくなりました。なぜ減ったのだろうと思い、全部の一時預かりの人数を調べたところ、去年 4 月は 155 件あったのが今年は 97 件でした。それだけ、保育園に入る要望が皆さん通って保育園に入れたのかなと思います。この 1 年通してお仕事で 12 日間お預かりする方は菅原では 2 人しかいません。あとは、不定期で来られる方で月 4 回、5 回くらいで良いという方は保育園とか幼稚園に入らなくても、このような一時預かりを利用して週 1 回の仕事へ行かれています。預かりの中では、理由が就労とか就学とか色々ありますが、圧倒的に精神的苦痛、育児の苦痛が多いです。やはり、そのような人たちの為に受け入れていかなくてはならないし、7 ヲ所支援センターがあるので、菅原で見られなかった場合は必ず他の所をご案内するようにし、皆で子育てを支えたいなと思っています。

また、転勤の方がたくさんいらっしゃって、実家が離れていて、ひとりで育児をして負担がかかっているという方に広場を開放し、職員を配置して育児相談をしています。

(委員)

親として、精神的苦痛というのは良くわかるので、ぱっと預けられるとか、誰かと話ができるとかそういったことでも気持ちが軽くなり安心出来ます。

(事務局)

今も話に出てきていましたが保育士不足が危機迫るところまで来ております。野々市市におきましても、これまで市の方で働いていた方々にも登録 OG 保育士ということでお願いしていこうかと進めています。何かの時にお手伝いをして頂くのも勿論大切ですが、日々保育を進める保育士が足りないということで、私たち保育士の仲間、知り合いもいきつくような状況です。県の福祉のマッチングサービスでも潜在保育士の発掘をしていますが、そちらの方からのご紹介もあります。ですが、地域の中で皆さんのお知り合い方々など保育士の資格を持っている方がいらっしゃいましたら、支援課の方にお知らせ下さい。お子さんを安心して市内の 16 公立法人の保育園で受け入れる為にも保育士が必要になってくるので、地域のネットワークでお聞かせいただいたらまた私たちの知らない所に宝が埋まっているかもしれないので、そういうことをお耳にしましたらお知らせをお願いしたい

と思っております。よろしくお願い致します。

(委員)

そのことを是非、連携をして人材確保をしていくということで計画の中に盛り込むことが大事なのではないかと思います。

(和泉部会長)

国の計画した事業をきっちりやるのがこの会議の役割ですので、それ以上に踏み込むのはなかなか大変ですが、この会議を利用して方策なり提示していただいて私たちの良い財産にし、積極性を持ってこちらからお聞きして会議で話題にできるように、人材という議題を最後に書くというような方向もよろしいかなとこのように思います。

ここは保育の質をとにかくいう会議ではありませんが、保育の質を上げていくことがとても大切なのでそのことも話題にできると良いと思います。

(事務局)

また、毎年毎年この13事業にとらわれず、皆さんから頂戴いたしました貴重なご意見をまた次の会議にご提案させていただきながら見直しをして、計画を進めていきたいと思えます。本当に有難うございました。

(和泉部会長)

よろしくお願い致します。では、これで終わります。本日は有難うございました。

(事務局)

本日は本当に有難うございました。お気を付けてお帰り下さい。

以上